

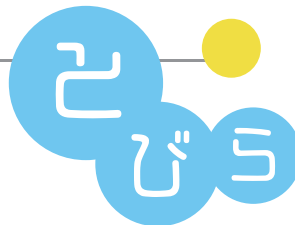
特集《意見交換会》

— 3つのテーマで市民の声を聞きました —



柏崎市議会だより

ギカイの



No. 189 令和4(2022)年8月5日

今回の表紙

活発な意見を交わす市民の皆さん

意見交換は、テーマごとに会場を分けて行いました。
(場所 産業文化会館)

もくじ

■ 特集《意見交換会》	P2・3
■ 常任委員会審査報告	P4・5
■ こんなことが決まりました	P6
■ 一般質問	P7~10
■ 政務活動費会計報告、賛否一覧	P11
■ ギカイのうごき	P12
■ 議会図書室へようこそ!	P13
■ 請願・陳情の出し方	P14
■ トピックス	P15
■ 9月定例会議日程 ほか	P16



〈4月27日に産業文化会館で開催しました〉
調査研究テーマに沿って
活発に意見交換

詳しくはコチラ



参加者からいただいた意見を参考に、12月定例会議での報告に向けて調査研究に取り組んでいきます。

テーマ1 ワーク・ライフ・バランス ～家庭における役割分担～ (総務常任委員会)

- 家事分担は、思いやりの気持ちから自発的に行うようにする。
- 若い人たちは意識をもって「家事シェア」をしている方だと思う。
- 育児では、父親は細かいところに目が届かず反省すべき点がある。
- 家事や育児、介護には体力が必要。男性の視点・女性の視点があり、男女の助け合いが必要だ。
- ワーク・ライフ・バランスは、家庭内での子どもへの教育が大事だと思うので実践していきたい。
- 祖父母世代と子育て世代の間で、子育てに関する認識などにギャップがあることが問題だ。
- 我々祖父母世代は、子育て世代が家事・育児は自分のこととして捉えていることを見守っていききたい。
- 人口減少の中、男だ女だと言ってられない時代なので、男女共同参画の重要性を考えてほしい。



テーマ2 子どもたちの学びの保障 ～不登校児童・生徒の場合～ (文教厚生常任委員会)

- どうして学校に行きたくないのかを丁寧に聞き、これからどうしていくのかを一緒に考える。
- 学校だけがすべてではないと伝える。
- 学習よりも、人や社会とのつながりが大切だ。
- 本人の良さが伸ばせるように支援する。待つことも大切だと思う。
- 学校に行けないことの背景にある理由が一人一人違うので、支援の在り方について、本人

を含めて多方面の人と意見交換したい。

- 不登校は特別ではない。通学することを目指さない。通学したとしてもそれは解決になっていない。
- 子どもたちは、みんな学びたいと思っている。個別最適な学び、協働的な学びの可能性を探る。
- フリースクール、ホームスクールや山村留学など、いろいろな環境を選択できるようにしてほしい。

- 不登校に対する予防的な支援、不登校児童・生徒への長期的な支援計画が必要だ。



テーマ3 産業振興と人材育成 ～あなたの職場のデジタル化～

(産業建設常任委員会)

- デジタル化に付いていっているが、コミュニケーション能力も落とさないことが必要だ。
- システム導入にあたり、デジタル化は手段であって目的でないことを認識することが大切だ。
- 福祉の現場では機械化は進んでいない。
- 建設業では工事現場の写真などでスピード感が増し、効率化も進んでいる。
- IT導入補助金の申請などに課題がある。市でもITベンダーへの後押しをしてもらえたら、より良いのではないか。
- アナログ人間だが、ビジネスチャットツールなどが使えるようになった。まずはデジタルに触れることが大事だと思う。

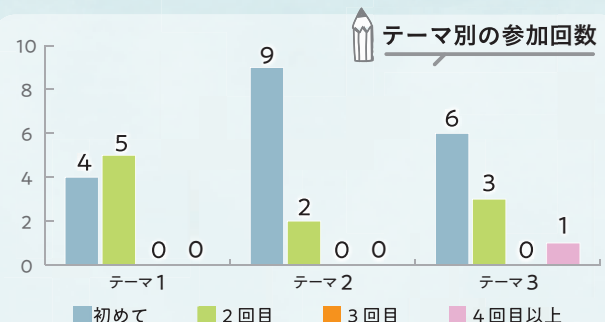
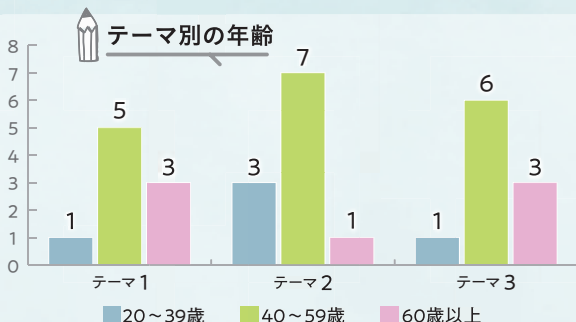
- 柏崎 i T 部活や高校生を対象として、専門性の高い人材を育てることが大事だ。
- 行政の人材育成に対する考え方を、市内企業に示して欲しい。



アンケート
結果より

参加者30人(男性14人、女性16人)から回答をいただきました。

テーマ、進行、開催時期、時間帯についての回答は、いずれも「良かった」が9割以上でした。その他、多数のご意見をいただき、ありがとうございました。



令和4(2022)年6月定例会議常任委員会での審査について 報告します

総務常任委員会

■委員長 阿部 基 ■副委員長 布施 学
■委員 星野幸彦・三宮直人・飯塚寿之・佐藤和典・若井恵子・星野正仁

3件の議案を審査しました。

・財産の取得について

事業の概要

消防本部、消防署などに設置している高機能消防指令センターのコンピューター機器などの更新を行う。

主な質疑

Q 導入による効果は。

A 指令システムの安定、NTT固定電話網の

IP化に対応できることなどが挙げられる。

Q 導入の工期は。

A 6月下旬に本契約を締結して7月から機器設置などの打合せを開始する。また、11月から電源ケーブルの配線工事と機器の搬入を行い、1月から2月までに配置・据付工事を行い、3月に完了する予定。

文教厚生常任委員会

■委員長 重野正毅 ■副委員長 白川正志
■委員 笠原晴彦・近藤由香里・樋口良子・荒城彦一・上森 茜・春川敏浩

1件の陳情を審査しました。

・後期高齢者の医療費窓口負担の2割化中止を求める陳情

陳情の概要

内閣総理大臣をはじめ、国の関係部署へ意見書の送付を求める。

討論の要旨

■賛成■ 75歳以上の方が安心して医療機関を受診できるようにすることは国の責務である。物価上昇が続く中、年金支給額が減額される

今の社会情勢において、高齢者の医療費負担増はかなり厳しいものとなる。コロナ禍による影響も考慮すべきである。

■反対■ 超高齢社会の進行により社会保障が増大し現役世代の負担も増えている。後期高齢者の医療費は2割負担となるものの、所得による条件が設けられ、高額医療費助成制度などのセーフティネットも用意されている。

産業建設常任委員会

■委員長 山本博文 ■副委員長 田邊優香
■委員 村田幸多朗・秋間一英・持田繁義・佐藤正典・相澤宗一・柄沢 均

2件の議案を審査しました。

・市道路線の廃止について

事業の概要

- 市道14-18号線、14-19号線は集落道の改良に伴う廃止（大字宮之窪）
- 市道20-9号線は市道再編に伴う廃止（大字宮川）

主な質疑

Q 20-9号線は大きな縮小再編だが、道路

を使用しないことから市道認定しないのか。

A 民有地内の使用実態のない道路区間などを廃止したい。

Q 20-9号線市道路線の廃止後の除雪対応は。

A 市道除雪が必要な区間は市道として残している。廃止部分は、今までも除雪対応していなかったため、影響はないと考える。



委員会の録画映像は **YouTube** で
見ることができます



審査した議案は
こちら

予算決算常任委員会

■委員長 星野 正仁 ■副委員長 持田 繁義

※分科会長・副分科会長・委員は、各常任委員会の委員長・副委員長・委員と同じ。

令和4(2022)年度一般会計補正予算(第5号)など、11件の議案について
審査しました。

総務分科会

令和4(2022)年度一般会計補正予算(第5号)

・災害対策本部施設維持管理費(61万9000円)

事業の概要

災害対策本部室のモニターなどの機器に、停電時に継続して運用するための装置を設置する。

主な質疑

Q 修繕の詳細は。

A 災害対策本部室の大型6面マルチモニター、移動式モニター、操作端末に無停電電源装置を設置し、電源ケーブルの配線を行う。

耐用年数は5年であることから、今後、必要に応じて交換を行いたい。



文教厚生分科会

令和4(2022)年度一般会計補正予算(第5号)

・新型コロナウイルス感染症生活支援事業 (4815万円)

事業の概要

感染により外出できない世帯に1週間分の食料品を届ける事業における7月以降の必要経費。

主な質疑

Q 食料支援における離乳食への対応は。

A 離乳食は要望があれば備蓄品を利用して届

けることもできる。

Q 社会情勢により支援日数の変更などを検討してはどうか。

A 年度内はこの事業を継続する予定だが、今後待機期間の短縮や食料品高騰などの状況の変化があれば、それを踏まえ適切な支援を検討したい。

産業建設分科会

令和4(2022)年度一般会計補正予算(第5号)

・漁港整備市費事業(3980万5000円)

事業の概要

荒浜漁港に例年以上に堆積した砂をしゅんせつ・運搬処分する。

主な質疑

Q 事業経過と内容は。

A 冬季風浪により出漁できないほど港内に砂が堆積した。港内のしゅんせつ工事としゅんせつ土の運搬処理を行う。

Q 荒浜漁港特有の現象か。荒浜漁港の位置付けは。

A 特に砂の堆積が多いのは、荒浜漁港と鯨波漁港。荒浜漁港は重要な漁港であり、今後もメンテナンスが必要であると認識している。



しゅんせつ前の荒浜漁港

こんなことが 決まりました

5月随時会議・6月定例会議 議案審議

Pick up

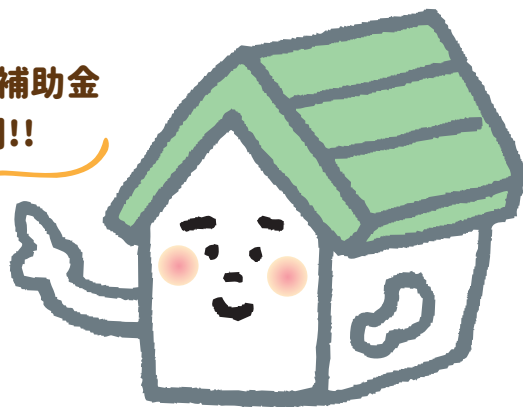
1

住宅リフォーム工事に対する補助金の受け付けが再開されました

◎住まい快適リフォーム事業 2000万円

当初予算に達したため停止されていた令和4（2022）年度の住まい快適リフォーム事業の申請受け付けが、5月23日に再開されました。

リフォーム補助金
再開!!



Pick up

2

脱炭素社会実現に向けた調査が行われます

◎地球温暖化対策推進事業 1000万円

2035年カーボンニュートラル実現に向けて、再生可能エネルギーの導入や森林吸収量増加に向けた課題などを整理するための調査が行われます。国が募集する「脱炭素先行地域」の採択に向け、地域特性を生かした独自性のある提案をする方針です。



議決した議案はコチラ

